

ダンス学科

2年次生

学科名	ダンス学科
科目名	ジャズダンスⅢ
担当講師名	毛利あゆみ・迫畠令花
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティストの振付やバックダンサーとしての実績がありダンススタジオの経営を行いながら自身もレッスンを受け持つ実務経験を持ちます。

#### 授業内容

プロとして通用する身体、テクニック、表現力を高めていきます  
Ⅲクォーターでは「セクシー」「マニッシュ」など、Ⅳクォーターでは「バラード」をテーマとし、“静と動”の表現力を学びます。ダンサーにとって「自分の世界」を創り上げる事がいかに大切なことか学んでいきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

感情や体の表現方法をテーマ、作品に沿って踊り分けが出来るようにしていきます。感情は表情だけではなく身体から表現する事によってダンスに説得力が出てきます。ただ踊るのは1年生で終わらせ、プロダンサーとして意識した踊り方、テクニックを身につけていきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①与えられた振付を自分の解釈ではなく振付者の意図に沿って踊る能力をつけていきます。
- ②ただ踊るのではなく曲・振付に合った体の動かし方を学び、様々な音へのアプローチの仕方を学びます。
- ③曲のイメージにあった表現方法を学び、その曲の情景が思い浮かぶような表現が出来るようにしていきます。
- ④フォーメーションをつけて周囲を意識して他の演者の空気を感じて踊る事を学んでいきます。
- ⑤踊っている姿を自分で動画を撮影して振付作品を客観的に見て、体が動かしているか表現できているかなどを確認していきます。
- ⑥ここまで習った作品の踊りこみをしていきます。体の使い方、音の取り方、表現方法など隅々まで確認をしていきます。
- ⑦作品を発表します。振付は正確か・曲のイメージを理解しているか・表現は出来ているか学んだ事が出来ているか見ていきます。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席30%、試験50%、平常点20%

曲・振付を与えられた中で、いかに自分なりにイメージを膨らませているか、そのキャラクターを確立できているか、尚且つ自分自身の個性をプラスできているか、この3点をポイントに評価していきます。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧与えられた振付を自分の解釈ではなく振付者の意図に沿って踊る能力をつけていきます。
- ⑨曲、歌詞のイメージに合う動きを学び、イメージが出来上がってきたらストーリーを作ります。
- ⑩動きに緩急をつける為に、静と動を覚えます。動きの幅を広げ身体表現を豊かにして身体を最大限に使います。
- ⑪バラードならではの感情表現を学んでいきます。感情を出す事を恥ずかしがらずに自分の思った表現をしていきます。
- ⑫フォーメーションをつけて周囲を意識して他の演者の空気を感じて踊る事を学んでいきます。
- ⑬踊っている姿を自分で動画を撮影して振付作品を客観的に見て、表現方法が間違っていないか確認をします。
- ⑭ここまで習った作品の踊りこみをしていきます。一人で行わず他の演者と踊る事により足りないところを見つけていきます。
- ⑮作品を発表します。振付を正確に覚える事を念頭に、感情を出して人に「伝える」事を意識していきます。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席30%、試験50%、平常点20%

動きの変化・表現・テクニック、細かい部分への気の使い方が出来ているか、柔軟な身体と強い感情表現をコントロールし自分の世界を作り上げているか、これらのポイントを評価していきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	ジャズダンスⅣ
担当講師名	毛利あゆみ・迫畠令花
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティストの振付やバックダンサーとしての実績がありダンススタジオの経営を行いながら自身もレッスンを受け持つ実務経験を持ちます。

#### 授業内容

卒業公演に向けての作品作りに入ります。今まで学んだ事を活かし、グレードの高い作品をプレゼンテーションしていきます。3クォーターは作品のコンセプトに従った自己アピールを研究し、4クォーターは今まで習ってきた事、覚えた事が身についているか、2年間の締めくくりを行います。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

2年間の総まとめとして今まで習得してきた基礎・テクニック・表現力を最大限に発揮して、作品を通して個々のレベルアップ、ステージングを身体で覚え、ただ踊るのではなく作品にあった嘘のない感情を表現し、プロとしての自覚を持つことを目標とします。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①作品のコンセプトを伝えます。イメージした上で振付に入ります。自分でどんどんイメージを膨らませていきます。
- ②繰り返し繰り返し練習をして振付を正確に確実に覚えて基盤作りをしていきます。
- ③基盤ができたなら動きの幅を広げていきます。イメージに合った表現方法を出していきます。
- ④フォーメーションをつけて周りとの空気、呼吸を合わせて一体感を出していきます。常に周りを意識することが大切です。
- ⑤踊っている姿を自分で動画を撮影して振付作品を客観的に見て、表現方法が間違っていないか確認をします。
- ⑥ここまで習った作品の踊りこみをしていきます。他の演者との合わせを忘れずに一体感が出ていることを確認していきます。
- ⑦作品を発表します。振付を正確に覚える事を念頭に、自分というダンサーを思い切り出して表現していきます。

### 中間試験評価方法・評価基準

出席30%、試験50%、平常点20%

基礎・テクニック・表現が自分のものとして最大限に活かされ、且つ形となって現れているか、「作品を作り上げる」という意識を持ちその中で自己アピールが出来ているか、この2点を重点的に評価していきます。

### 授業計画（8回目から15回目）

⑧卒業公演の作品の曲とコンセプトを発表します。その曲、コンセプトに対してイメージをしっかりと持ち振付に臨みます。

⑨卒業公演の振付に入ります。速く、正確に振りを取れるようにしていきます。

⑩引き続き振付を行います。もらっている振付を忘れることなく自分の個性もだしてアピールしていきます。

⑪フォーメーションをつけて全体で踊っていきます。全体の空気感、作品の最初から最後までを意識していきます。

⑫衣装チェックを行います。言われた衣装をただ着るのではなく作品に合った着方、自分に合う衣装選びが大事になります。

⑬衣装を着て本番を想定して踊ります。衣装も表現するための重要なポイントになるため、雰囲気も大事にしていきます。

⑭作品を動画撮影し個々の成果を確認して今後の目標を立てていきます。

⑮2年間最後の授業です。自分の力を最大限に出し、自分はこういうダンサーになったと最後のアピールをします。

### 期末試験評価方法・評価基準

出席30%、試験50%、平常点20%

2年間で習得した、基礎・テクニック・表現力が身についているか、作品を通して個々のレベルアップと自己表現がバランス良く出来ているか、これらをポイントに総合力を評価していきます。

### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	ストリートダンスⅢ
担当講師名	瀧本祐一・高橋寿江
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は様々なアーティストのバックダンサー・振付を手掛け、大手ダンススタジオでもレッスンをを行う実務経験を持ちます。

#### 授業内容

バックダンサー、テーマパークダンサーから、舞台でも必須とされるようになった「ストリートダンス」。  
ストリートダンスと一概に言っても沢山のジャンルがあります。ジャンルを幅広く習得するために体作り、基礎トレーニングを行っていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

使える踊り、生きる踊り、魅せる踊りを習得していきます。それに伴う、身体、精神作り、判断能力と、「見る」力を付けて行きます。ダンスが踊れば良いのではなく、見る力を養い振付者の細かい所まで吸収し表現できるようにしていきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①ストレッチの正しいやり方を覚えていきます。フラットバック、コントラクションなどの基礎トレーニングの流れを覚えます。
- ②1回では覚えられないのでストレッチを反復して覚えていきます。覚える事により正しい体の使い方を覚えていきます。
- ③段々とストレッチを覚えてきたらそれを振付にも応用していきます。体の使い方を覚えて見やすいダンスの踊り方を覚えます。
- ④覚えた上で修正作業を行っていきます。可動域の確認をして自分の動かせる体の限界点を伸ばしていきます。
- ⑤身体の各部位の動かし方を覚えてアイソレーションを習得していきます。
- ⑥ダウン・アップ・前ノリ・後ろノリを体の使い方を理解した上で、練習していき魅せ方の幅を広げていきます。
- ⑦基礎トレーニングで行った動きを取り入れたコンビネーションを踊ります。身体をしつかりと使っているかの確認をしていきます。

### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

アイソレーションを確実に覚えていて振付の中でのリズムがしっかりと活かされているか評価していきます。普段の授業のストレッチと基礎トレーニングの流れを覚えているかも評価ポイントとしていきます。

### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧フラットバック、コントラクションの習得をしていきます。正しく使うためにどこの筋肉を使うか理解していきます。
- ⑨アイソレーションのトレーニングをしていきます。正しく使えているか、可動域は広がっているか確認していきます。
- ⑩横ノリやダブルアップなどリズムトレーニングの応用をしていきます。アイソレーションを理解しながら行います。
- ⑪リズム重視のコンビネーションを覚えていきます。使い方を理解しているか確認していきます。
- ⑫色々なアイソレーションを取り入れたコンビネーションを覚えていきます。身体を自分でコントロール出来るようにしていきます。
- ⑬SOUL DANCE の基礎トレーニングを行います。振りと振りの間を埋める為に欠かせないトレーニングです。
- ⑭SOUL DANCE のコンビネーションを覚えます。SOUL 独特のノリを表現できるように反復練習していきます。
- ⑮SOUL DANCE を取り入れたコンビネーションを踊ります。身体をしっかりと使えているかの確認をしていきます。

### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

リズム、アイソレーションが体に入っていてコンビネーションに反映されているかを評価していきます。

またクォーター末試験でも行った基礎トレーニングの流れが体に入って、習得出来ているかも評価ポイントとしていきます。

### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	ストリートダンスⅣ
担当講師名	瀧本祐一・高橋寿江
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は様々なアーティストのバックダンサー・振付を手掛け、大手ダンススタジオでもレッスンをを行う実務経験を持ちます

#### 授業内容

12月には「クリスマスライブ」、3月には2年間の集大成となる「卒業公演」が控えています。Ⅲクォーターでは曲に合った表現方法を、Ⅳクォーターでは見ているお客様に対する表現方法を習得していきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基礎トレーニングをおろそかにせず、身体の使い方を見直していき、表現だけに走らない説得力のあるダンスを踊れるようにしていく事を目標とします。またオーディション時に必要となる振り覚えの速度を上げていく事も目標とします。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①HIPHOPの中でも音取りの強いコンビネーションを覚えていきます。繊細かつ大胆に音取りを出来るようにしていきます。
- ②まずはコンビネーションを覚えます。その後、曲の意味、振付の意味を伝えそれに合った表現方法を学んでいきます。
- ③限られた振り入れの回数で振付を覚えていきます。細かい所まで習得する為にどうすればいいかを学んでいきます。
- ④前回よりも長い振付を限られた回数で覚え、振りだけでなく表現方法も考えながら踊れるようにしていきます。
- ⑤ゆっくりなテンポの曲の振付を行います。ゆっくりな分、身体を大きく使わないと間延びをしてしまうので埋め方を学んでいきます。
- ⑥テンポの速い振付を行います。手先、足先だけではなくに身体全部を使って表現するためにどうするかを学んでいきます。
- ⑦ミドルテンポの曲で振付を覚え発表します。早取りにならない為に身体を大きく使う事を学んでいきます。



#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

楽曲のテンポやテイスト、振付のテイストをしっかりと考えて、その楽曲、振付に合った表現方法を理解して魅せる踊りにつなげるべく学習をしているか評価していきます。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧フリーで踊る力をつけていきます。ソロダンスとは違い自分はその曲に対して感じたものを考えずに出せるようにしていきます。
- ⑨振付を覚えて残りの部分を自分で振付をします。フリーダンスではなくその前の振付と違和感のない振付を作成できるようにしていきます。
- ⑩ここまで習ってきた全てのジャンルを使ったコンビネーションを行います。そのジャンルの特性を出せるようにしていきます。
- ⑪自分のダンスで人を魅了する為に何が必要か学んでいきます。ただ踊るのではなく表情、空気感を変えていきます。
- ⑫自分のダンスで人を楽しませる為に何が必要か学んでいきます。何よりも自分が楽しんでいるかが大事です。
- ⑬自分のダンスを人に伝える為どうするのか学んでいきます。表面的なダンスにならないように説得力のあるダンスを心掛けていきます。
- ⑭苦手意識を持って踊ると見ている人には伝わってしまいます。苦手な部分を1つずつ無くしていき、苦手意識を無くしていきます。
- ⑮振付を覚えて発表します。ここまで習ってきた事全てを出してもらいます。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

この一年間で、培ったものが、作品中に表現出来ているか、細部(手先、足先、表情)まで神経を使って踊れているか、人に魅せるという事を考えて踊れているか評価していきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	オールドスクールⅢ
担当講師名	太田幸希
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はオールドスクールのレッスンを多数受け持ち、「よさこい」など多種多様なレッスンを行っている実績を持ちます。

#### 授業内容

1年間学んできた事を活かし、さらにより良いダンサーを目指していきます。ただ教えてもらうだけでなく、学んだことを自分なりに理解した上でアウトプットの練習もしていきましょう。バトルなども経験してみましょう。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

習ったものを正確に表現するだけでなく、個性も際立つダンサーになるようにしていきます。またインプットだけで終わらないようにアウトプットも当たり前出来るようにしていきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①グループを組み、習った振付と別で各グループごとに LOCK, SOUL, PUNKING を使った振付を考えていきます。
- ②習った振付、考えた振付をグループごとに発表していきます。
- ③グループを組み、習った振付と別で各グループごとに HOUSE を使った振付を考えていきます。
- ④習った振付、考えた振付をグループごとに発表していきます。
- ⑤バトル形式の授業を行います。サークルを作りそれぞれのダンスを出し合っていきます。
- ⑥振付を覚え、振付とは別に自分たちで振付を考えて振り入れを行っていきます。
- ⑦覚えた振付と制作した振付を発表していきます。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、テスト 50%、平常 20%とします。  
ジャンルの特性がうまく表現できているか確認。正確に踊りこなすだけではなく個性もア

ピールできるかどうかを評価していきます。また振り付けの能力も確認&評価していきます。

#### 授業計画（8回目から15回目）

⑧秋公演の上演作品制作を行っていきます。ただ踊るのではなく人前で踊る事を意識していきます。

⑨振付を開始していきます。正確に覚えて踊ることを学んでいきます。

⑩振付を覚えたらその振付を正確に踊れているか確認をしていきます。

⑪フォーメーションをつけていきます。どこの立ち位置で踊っているのかを確認していきます。

⑫構成をつけていきます。自分がどこのタイミングで踊るかなど確認をしていきます。

⑬作品の踊りこみをしていきます。正確に踊れているか、立ち位置、構成を理解しているかの確認もしていきます。

⑭衣装をつけて本番同様に踊ります。客観的に見て自分の踊り、全体の踊りがどうかを確認して修正作業を行っていきます。

⑮秋公演の上演作品をグループ分けをして発表を行っていきます。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、テスト 50%、平常 20%とします。

作品のジャンルの特性を理解しそのジャンルのダンスを表現できているかを確認&評価をしていきます。9月公演を意識して本番同様に踊れているかも確認していきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	オールドスクールⅣ
担当講師名	太田幸希
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はオールドスクールのレッスンを多数受け持ち、「よさこい」など多種多様なレッスンをを行っている実績を持ちます。

#### 授業内容

インプット・アウトプットを繰り返し、スキルをプロレベルにもっていきます。また色々な作品を経験していく上で色々な振り付けにすぐ順応できるようにしていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

より高いスキルを習得し、プロに通用するレベルへしていきます。また踊る・創るだけでなくコミュニケーションや作法なども身に付け、外部でも通用するダンサーへなっていくように指導していきます。業界で長生きする為に礼節を大切にしていきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①12月公演の上演作品制作を行っていきます。ただ踊るのではなく人前で踊る事を意識していきます。
- ②振付を開始していきます。コンセプトを理解し正確に覚えて踊ることを学んでいきます。
- ③振付を覚えたらその振付を正確に踊れているか動画撮影を行い確認をしていきます。
- ④フォーメーションをつけていきます。どこの立ち位置で踊っているのかを確認していきます。
- ⑤構成をつけていきます。自分がどこのタイミングで踊るかなど確認をしていきます。
- ⑥作品の踊りこみをしていきます。正確に踊れているか、立ち位置、構成を理解しているかの確認もしていきます。
- ⑦12月公演の上演作品をグループ分けをして発表を行っていきます。その中で自分の振付も作成し発表していきます。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、テスト 50%、平常 20%とします。

作品のジャンルの特性を理解しそのジャンルのダンスを表現できているかを確認&評価をしていきます。12月公演を意識して本番同様に踊れているかも確認していきます。

#### 授業計画（8回目から15回目）

⑧卒業公演の上演作品制作を行っていきます。ただ踊るのではなく人前で踊る事を意識していきます。

⑨振付を開始していきます。コンセプトを理解し、ステージの大きさも理解して踊ることを学んでいきます。

⑩振付を覚えたらその振付を正確に踊れているか動画撮影を行い確認をしていきます。

⑪フォーメーションをつけていきます。どこの立ち位置で踊っているのかを確認していきます。

⑫構成をつけていきます。自分がどこのタイミングで踊るかなど確認をしていきます。

⑬作品の踊りこみをしていきます。正確に踊れているか、立ち位置、構成を理解しているかの確認もしていきます。

⑭衣装をつけて本番同様に踊ります。客観的に見て自分の踊り、全体の踊りがどうかを確認して修正作業を行っていきます。

⑮卒業公演の上演作品をグループ分けをして発表を行っていきます。その中で自分の振付も作成し発表していきます。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、テスト 50%、平常 20%とします。

ジャンルの特性がうまく表現できているか確認をして、正確に踊りこなすだけでなく個性もアピールできるかどうかを評価していきます。2年間学んできた事全てを出し切れるかも見ていきます

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	クラシックバレエⅢ
担当講師名	佐々木典子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は多数のスタジオでバレエのレッスンをを行う実務経験を持ち、主にジャズダンスを踊る中で必要なバレエテクニックの習得をしていきます。

#### 授業内容

1年生で学んだ基礎を踏まえ、柔軟性、キープ力、跳躍力を強化しテクニックの向上を目指します。バーレッスン、センターレッスンの内容もより複雑になり充実していきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

軸や重心を意識しながら移動するフロアワークは、しなやかな動きが必要とされるジャズダンスやコンテンポラリーダンス等に役立ち、柔軟性と筋力を高める事で怪我をしにくい身体を目指します。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①バーを使ったストレッチを解説します。身体の構造を理解して行えるようにしていきます。
- ②フロアでのストレッチを解説します。つま先、指先にまで神経を行き届かせます。
- ③足を高く上げた状態で保つ力を養います。どこの筋肉を使っているのか理解しながら行います。
- ④身体の軸の強化を行います。自分の軸がどこにあるのか感じながら行っていきます。
- ⑤瞬発力の強化を行います。重心がどこにあるのか考え、感じながら強化をしていきます。
- ⑥身体の軸の強化を行い、更に瞬発力を鍛えていきます。
- ⑦より複雑かつ高度になった内容でバーレッスンを行います。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。  
更に発展させた内容でバーレッスンをを行いながら、基本に忠実に正確なポジションが通れているか採点します。ダンサーの身体作りに欠かせないバーレッスンの流れを覚えます。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧身体の軸を意識し、緩やかな動きの中でより丁寧な動作を学びます。
- ⑨片方の足に立つ意識を強化し、ターンやジャンプに繋がる筋力を身に付けます。
- ⑩軸の意識を強化し、回転時に体制を崩さないよう練習します。意識をする事が大切です。
- ⑪移動のステップを組み合わせて練習します。移動してからの重心を考えてピルエットに繋がれるようにしていきます。
- ⑫基本的なジャンプから複雑なジャンプまで、重心移動のコントロールを学びます。
- ⑬大きなステップと大きなジャンプを組み合わせて流れるようなムーブメントを身に付けます。
- ⑭ピケやシェネなど、移動していく traveling turn を練習します。
- ⑮2クォーターでそれぞれ行ってきたアンシェヌマンを採点します。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。  
正確なポジションを通りながら複雑なアンシェヌマンの流れを理解し、よりしなやかで流れるような動作が行えているかを採点していきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	クラシックバレエⅣ
担当講師名	佐々木典子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師は多数のスタジオでバレエのレッスンをを行う実務経験を持ち、主にジャズダンスを踊る中で必要なバレエテクニックの習得をしていきます。

#### 授業内容

春学期に続き、テクニックの強化を行っていきます。4 クォーターでは古典バレエの振付にも挑戦して、技術と表現力の向上を目指していきます。基礎も大切にしていき、高度な技術を身につけていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

正確な基礎は美しいラインと確実な技術力に繋がります。これまでに学んだ事を踏まえ、美しくしなやかに踊る事を目指します。表現方法も考えて作品ごとの表現が出来るようにしていきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①春学期よりも身体の軸を意識し、緩やかな動きの中でより丁寧な動作を発展させた内容で練習します。
- ②回転時に体制を崩さない為の軸の意識を春学期よりも更に発展させた内容で練習します。
- ③移動のステップの組み合わせを春学期よりも更に発展させた内容で練習します。
- ④春学期に学んだ基本的なジャンプから複雑なジャンプの重心移動のコントロールをさらに発展させた内容で練習します。
- ⑤大きなステップと大きなジャンプを組み合わせるようなムーブメントをさらに発展させて練習し身に付けます。
- ⑥ピケやシェネなど、移動していく traveling turn を更に発展させた内容で練習します。
- ⑦3 クォーターでそれぞれ学び、行ってきたアンシェヌマンを採点していきます。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。



基本に忠実に行えているか、跳躍時、回転時の形の美しさも評価していきます。また 2 クォーターで学んだアンシェヌマンも理解しているかもポイントとしていきます。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧春学期、3 クォーターよりもさらに発展させたアレグロを学んでいき、反復練習をしていきます。
- ⑨春学期、3 クォーターよりもさらに発展させたピルエットを学んでいき、反復練習をしていきます。
- ⑩春学期、3 クォーターよりもさらに発展させたグランワルツを学んでいき、反復練習をしていきます。
- ⑪春学期、3 クォーターよりもさらに発展させた traveling turn を学んでいき、反復練習をしていきます。
- ⑫片足を軸として連続回転をするグランフェッテの練習を行っていきます。
- ⑬古典バレエにおけるバリエーションを練習していきます。映像を見ても勉強になります。
- ⑭古典バレエにおけるバリエーションを練習していきます。古き良きものを知って自分の知識としていきます。
- ⑮4 クォーターでそれぞれ学び行ってきたアンシェヌマンとバリエーションを採点していきます。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

古典バレエのバリエーションを通してさらに高い技術、表現力を身に付けます。正確なポジションと美しいラインが保たれているかも評価の対象としていきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	コンテンポラリージャズⅢ
担当講師名	大久保昌美
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はテーマパークでのショーダンサー、アーティストのバックダンサーなどを務め、長年に渡りダンススタジオで指導を行っています。

#### 授業内容

テクニックの強化です。1年次で修得した基礎に磨きをかけていきます。より洗練された身のこなしと表現の幅を広げる工夫、日常生活からモチベーションを高く保ちます。ソロの振り付けを踊り度胸をつけていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

テクニックを披露し自信をつけましょう。自分自身に湧き上がってくるインスピレーションや感情を大胆に表現していきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①2人で行います。互いの呼吸を意識し支えたり身を任せることで収縮と弛緩を深く捉えられるようになります。
- ②二人で互いのサポートをすることでより明確なトレーニングができます。モノを使っても良いでしょう。
- ③らせん状（渦巻き）の呼吸法です。動きに深い溜めと伸びを加えるテクニックを学びます。
- ④収縮（contraction）と弛緩（release）にスパイラルを加え動きに奥行きをつけます。
- ⑤らせん状（渦巻き）の動きが解けると同時に身体を開放し、脱力から生まれる動きを学びます。
- ⑥スパイラルを取り入れたアップを覚え身体に染み込ませていきます。無駄のない動きを学びます。
- ⑦床での振付を覚え 皆の前で踊ります。思い切り大きく動けたか、次の目標を立てます。

#### 中間試験評価方法・評価基準

【出席 30%・試験 50%・平常 20%】日々のトレーニングが体に染み込んで身のこなしに現れてきたか、動きと同時に湧き上がる感情を表現し、自由に大胆に踊れているかを見ます。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧シネ、ピケ、ピルエットのより高度な技術に挑戦します。
- ⑨フェットの正確な方法を覚え応用しアケルジャンプを学びます。
- ⑩シネジャンプ 最もダイナミックなテクニックです。キレと高さを要求されます。
- ⑪ターン&ジャンプ 高度な内容を正確にダイナミックに見せていきます。
- ⑫スロージャズの振り付けです。1～4で修得したテクニックを含む振り付けです。
- ⑬テクニックに加え、ニュワンスを伝える表現が要求されます。曲をよく聞いてイメージを膨らませます。
- ⑭ソロでも空間を埋められるように360度意識して踊り込みます。
- ⑮ソロの振り付けを皆の前で踊ります。一人で踊る感覚を体験し、不足している部分を見つけ次の目標を立てます。

#### 期末試験評価方法・評価基準

【出席 30%・試験 50%・平常 20%】テクニック中心のスロージャズを踊ります。バレエテクニックは正確か、ジャズ特有の動き方もニュワンスとなって伝わってくるかが評価の基準です。しっかり踊り込み発表します。技術と表現の両方から評価します。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	コンテンポラリージャズⅣ
担当講師名	大久保昌美
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はテーマパークでのショーダンサー、アーティストのバックダンサーなどを務め、長年に渡りダンススタジオで指導を行っています。

#### 授業内容

振付作品を踊るにあたり、ダンサーに求められるものは表現力です。湧き上がってくるものをいかに体現するのかを探っていきます。自らが表現し動きを作り出していきます。存在をアピールするテクニックです。コレオグラファーになる際にも重要となります。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

振付をもらうだけではなく、自ら感じたことを表現できたか。ジャンルにとらわれず、独創性を養い、人の心を動かし、求められるダンサーを目指します。そして多くの人に観てもらいましょう。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①音のイメージを掴む。何の音か、どの楽器か、どんなリズムか、イメージがより膨らむものをチョイスします。
- ②人物、モノ、気持ち、時代、背景等、ダンサー同士直接ディスカッションするのもヒントとなります。
- ③どんな衣装になるか、どんな照明なのか、ステージプランなど、動きのヒントになるものを探してみよう。
- ④振付をもらったなら1～3をもとにどんなふうに踊りたいかイメージを膨らませます。
- ⑤イメージを動きにします。立ち方、目線などニュアンスの表現です。振付のない所も隙間なく埋めていきます。
- ⑥踊り込む際に自己表現します。ダンサー同士、振付者とのディスカッションで作品の雰囲気や意図を明確に作ります。
- ⑦作品に情熱を注ぎ、踊ることが出来たか。またどのように伝わったか。次への目標を決めます。

#### 中間試験評価方法・評価基準

【出席 30%・試験 50%・平常 20%】テクニックだけでは選れたダンサーにはなれません。コンテンポラリーダンスでは直感をいかに体現できるか、リハーサル時から表現し、いかに作品にかかわり作品の中で自分の存在をアピールできたかを評価します。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧振付を覚える。オリジナルの衣装制作により作品への愛着とイメージを膨らませていく。
- ⑨フォーメーションを覚え、立ち位置を把握する。ホールの規模、客席との距離感も把握する。
- ⑩構成を理解し、表現をしていきます。周りの動きもよく見て感じ取ります。
- ⑪踊り込みの際に出はけの確認や導線の確保をしていく。ダンサー同士連携する。
- ⑫揃える動き、空いている空間を埋めていく。雰囲気を作り上げていく。
- ⑬音を繰り返し聞き込み、振りを丁寧に、表現と共に気持ちも乗せていく。
- ⑭最終リハーサルでテンションをあげ作品に入り込み、すべてを発揮して踊り魅せます。
- ⑮本番はリハーサルと同様に踊り、作り上げた作品の世界で楽しんでください。多くの人に観てもらい次の目標を見つけます。

#### 期末試験評価方法・評価基準

【出席 30%・試験 50%・平常 20%】コンテンポラリージャズを学んだことで、技術の向上と溢れ出る表現を修得できたか、2年間の成長を評価します。作品への意欲とリハーサル時の集中力、本番でのパフォーマンス、常に探究と開発をし、モチベーションを高め、次へつなげる力が付いたかを評価します。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	タップダンスⅢ
担当講師名	竹田祐子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はジャニーズ公演やミュージカル「ピリー・エリオット」振付指導、CM・映画出演、バックダンサーなど実績があり、多数のダンススタジオでレッスンをを行っている実務経験があります。

#### 授業内容

しっかり身体で覚えた人は動きもよく、習得したテクニックを何かに取り入れ、生かすことを知った筈です。努力の結果は歴然と現れます。自身の幅を広げることの大切さ、喜びも分かると思います。惜しまぬ努力をして集中しましょう。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

リズムと動きが全体でバランスよく動けるようになりましょう。片寄ったものになってはダンスの良さ、綺麗さはないので、テクニックを含めトータルな雰囲気レベルアップをしていきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①1年生のころに習ったステップ、技をマスターできているかの確認をします。
- ②何度も復習をしながらリズムとステップの再確認をしていきます。
- ③リズムを理解し、使い分けられるようにしていきます。それぞれのリズムを繋がって聞こえるようにしていきます。
- ④複数のパターンを覚え、徐々に早く練習していきましょう。まずは確実に音を出せるように心掛けていきます。
- ⑤ステップを覚えます。覚えてきたら、上半身の動きもつけて身体全部でステップを踏んでみます。
- ⑥これまでのステップを組み合わせて踊り込みをします。各ステップを理解しているか確認もしていきます。
- ⑦振付を覚えて少人数で発表をしていきます。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 40%、テスト 40%、平常点 20%とします。  
挑戦することの多かったこのクォーターで、どんどん進むほどに収穫も多く、ただひたすらに努力することの成果で評価をしていきます。

#### 授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧1 クォーターで習ったリズム、ステップ、技をマスターできているかの確認をします。
- ⑨長い振付を短時間で覚えられる授業を行います。振り取りの能力をつけていきます。
- ⑩曲の雰囲気に合わせて踊っていきます。上半身の表現方法も考えながら踊ります。
- ⑪曲の合間のフリーの部分をここまで習ったステップなどを使い自分で埋めていきます。
- ⑫聞き慣れない拍子の曲で振付を覚えます。ステップ自体は変わらないので惑わされないようにしていきます。
- ⑬聞き慣れない拍子の曲で振付を覚え、身体が慣れてくるように何度も繰り返し練習をしていきます。
- ⑭これまでのステップを組み合わせて踊り込みをします。各ステップを理解しているか確認もしていきます。
- ⑮振付を覚えて少人数で発表をしていきます。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 40%、テスト 30%、平常点 30%とします。  
コンビネーションや変拍子を理解してステップを正確に踏めているか評価をしていきます。また応用する事で自分の TAP の表現方法を増やせているかも評価していきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	タップダンスⅣ
担当講師名	竹田祐子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はジャニーズ公演やミュージカル「ピリー・エリオット」振付指導、CM・映画出演、バックダンサーなど実績があり、多数のダンススタジオでレッスンをを行っている実務経験があります。

#### 授業内容

卒業も間近に迫り、作品制作にあたり今まで習ってきたこと総てを取り入れられるよう、ここでしっかり復習をして、改めて正確であるかどうかを確認したいと思います。そして生かせるものは総て取り入れて作品の発表をできるようにします。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今まで習ってきたこと総てを生かし、作品で表現できるようになる事が目標です。真面目に授業を受けていれば全てのステップ、技が出来るようになっているはずですが、1つ1つのステップ、技を単体で考えず流れの中で行えるようにしていきましょう。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①2クォーターで習ったリズムなど、マスターできているかの確認をします。
- ②ここまで覚えたステップを活かしてコンビネーションを作り発表していきます。
- ③自分で振付することの楽しさを覚えその楽しさを見ている人に伝える力をつけていきます。
- ④リズム、ステップ、流れなどを考えながら、理解をして振付を作ります。無理のない振付作りをしていきます。
- ⑤インプロの練習方法を学び、実践していきます。ソロを作るのではなく感じるままにステップを踏みます。
- ⑥インプロを楽しみます。自分の思うまま、感じるままに踊る事がいかに楽しい事かを知っていきます。
- ⑦自分で小作品を作り、発表しましょう。

#### 中間試験評価方法・評価基準



出席 40%、テスト 40%、平常点 20%とします。

基礎からかなりレベルアップしてきたこの時期に、一気に様々なステップを取り入れた自作の自由作品で評価します。その結果の作品に対する意見を述べてもらうことで、次へのステップアップになると思います。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧長い振付を集中して覚えましょう。まずは形から覚えていきます。
- ⑨長い振付を集中して覚えましょう。音を正確に出せるようにしていきます。
- ⑩長い振付を集中して覚えましょう。音がしっかりと出せるようになったら形にもこだわっていきます。
- ⑪上半身や表情など、表現も作り込みましょう。下半身だけにならず身体全部で踊れるようにしていきます。
- ⑫上半身や表情など、表現も作り込みましょう。振付、音がしっかりと出せるようになったら表現方法も考えていきます。
- ⑬上半身や表情など、表現も作り込みましょう。表現先行、ステップ先行にならず全てが繋がって見えるようにしていきます。
- ⑭2年間の集大成となる作品を、最後まで妥協せず作り上げましょう。
- ⑮作品を踊って評価します。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 40%、テスト 40%、平常点 20%とします。

出席することの意義を理解し、また作品に参加することの有意義さを知ってもらい、その努力を認め評価します。卒業公演の作品は与えられた振りをただ踊るのではなく自分で表現するようにしていきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	シアタージャズⅢ
担当講師名	武井一仁
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

俳優としての演劇活動を経て、ダンサーやインストラクター、振付師、ダンススタジオ経営等、長きにわたっての実務経験を持ちます。

#### 授業内容

実際のプレゼンテーション(オンステージ)の中で、いかにテクニック、表現、存在感やキャラクター性を活かしアピールするかの技術を学びます。ダンスは短いドラマの連続なので、瞬間瞬間のドラマがいかに成立しているかで観るものに説得力を与える、ということをお学んでいきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

キャラクターの設定、キャラクターの個性での演技、いかに空間に実在しているか（存在感）など、表現法には欠かせない重要な要素が必要とされることを実感してください。また、単なるカウントダンスに陥らずに、振りと振りの間をうめていき、音と音の間を踊りきるように心がけましょう。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①いかに振付を早く、正確に覚えられるか、覚えた振りを、いかにダイナミックに踊りこなせるかがポイントです。
- ②ダイナミックに動くことで踊りが崩れてはいけません。運動量を減らさずに、いかに丁寧な踊るかがポイントです。
- ③ダンスは音楽によって踊ります。音楽を聴いてフィーリングを大切に、カウントダンスにならないよう注意してください。
- ④決められたポジションで踊ることはもちろん、登場・退場・移動もダンスのひとつだということを認識してください。
- ⑤キャラクターの設定を細かくし、イメージをはっきりと決めましょう。そして、決めたキャラクターを演じてください。
- ⑥作品の全体像をしっかりと見極め、何を見せたくて踊るのかを確認しましょう。
- ⑦1クオーターの試験になります。オンステージしたつもりで、大胆に、かつ繊細に表現していきましょう。

### 中間試験評価方法・評価基準

作品プレゼンテーションによる実技試験。試験 50%、平常点 30%、出席 20%  
作品のプレゼンテーションの中でテクニック、表現、存在感、キャラクター性を活かしアピールできているか、テンションの上げ方、表情などさまざまな部分を細かく考えられているかを評価していきます。

### 授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧「ニュアンスを掴む」振付を覚えるのと同時に、細かいニュアンスもしっかりと見極めてください。ニュアンスによって振りが全く違うものになります。
- ⑨「音を出す」ダンサーの身体は楽器です。自分の身体から音が出ているか意識して踊りましょう。
- ⑩「音のマッチング」音楽とともに踊り、自分の身体から出る音が楽曲とマッチしているかを確認しましょう。
- ⑪「フォーメーションを付ける」決められたポジションで踊ることはもちろん、登場・退場・移動もダンスのひとつだということを認識してください。
- ⑫「キャラクターを表現する」キャラクターの設定を細かくし、イメージをはっきりと決めましょう。そして、決めたキャラクターを演じてください。
- ⑬舞台上の目線で踊るのではなく、客席からどう見えるのかを意識しましょう。
- ⑭衣装を着用して踊ります。衣装が活きるように着こなし、衣装に動きがより活かされるように踊ります。
- ⑮2 クォーターの試験になります。意識は本番通りに持ち、大胆に、かつ繊細に表現していきましょう。

### 期末試験評価方法・評価基準

作品プレゼンテーションによる実技試験。試験 50%、平常点 30%、出席 20%  
ニュアンスは取れているか、身体から音が出ているか、その音が楽曲とマッチしているか、客席目線を理解して踊れているかななどをポイントに評価していきます。

### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	シアタージャズⅣ
担当講師名	武井一仁
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

俳優としての演劇活動を経て、ダンサーやインストラクター、振付師、ダンススタジオ経営等、長きにわたっての実務経験を持ちます。

#### 授業内容

3 クォーターではヒールジャズにチャレンジします。ハイヒールを履いて華麗に踊るにはどうすればいいかを習得していきます。また 4 クォーターでは卒業公演での上演作品を制作していきます。いよいよ 2 年間の集大成になるので、今まで得たものを存分に発揮してください。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ヒールを履いて踊る「ステップのスキル」を身に付けます。足さばきだけではなく身体のラインも意識して、美しい身のこなしを習得しましょう。卒業公演では 2 年間に習得したものを発揮し、プロの世界で通用する踊りを目指しましょう。

#### 授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①ハイヒールで踊るといことは重心そのものが変わってきます。つま先重心をしっかりと意識して、姿勢を理解していきます。
- ②ヒールジャズのステップを習得しましょう。様々なステップがありますが、基本はつま先からです。
- ③回転の伴ったステップを習得します。基本的なことは変わりませんが、ステップの流れの中での回転を意識しましょう。
- ④ジャンプも基本的なことは変わりませんが、踏切りと着地の際にヒールがあることを意識しましょう。
- ⑤振付の意図をしっかりととらえ、登・退場、移動を含めスキのないパフォーマンスを心掛けましょう。
- ⑥ワンピースを着て踊るといことを実感してください。スカートさばきもダンスの中に入ります。
- ⑦3 クォーターの試験になります。ヒールジャズ特有の身のこなし、足さばきなどに注意しましょう。

#### 中間試験評価方法・評価基準

作品プレゼンテーションによる実技試験。試験 50%、平常点 30%、出席 20%  
身体のライン、重心、つま先の意識、身のこなし、足さばきなどヒールジャズに必要な要素がしっかりと習得できているかを評価します。

#### 授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧どんな作品にも「テーマ」は必ずあります。その根底のところをまず理解してから振付を覚えましょう。
- ⑨シアタージャズ特有の演劇性やシチュエーション、キャラクターなどを加味しながら振付を覚えましょう。
- ⑩登・退場、移動を含め、踊りからの一連の流れを大切に、舞台上の情景だけではなく舞台袖の情景も表現しましょう。
- ⑪決められた衣装をいかに着こなすかが重要です。細部にわたっての細工が決め手になります。
- ⑫演出をよく理解し、作品の持つ世界観をしっかりと表現しましょう。その中に存在できることも大事です。
- ⑬衣装の持つ魅力を最大限利用し、踊りを活かすように心がけましょう。そのためには練習が必要です。
- ⑭全ての要素を再点検し、最終リハに臨みます。テーマや演出、振付などの意図をしっかりと表現しましょう。
- ⑮4クオーターの試験になります。2年間学んできたことを忘れずに、大胆にかつ丁寧にパフォーマンスしましょう。

#### 期末試験評価方法・評価基準

作品プレゼンテーションによる実技試験。試験 50%、平常点 30%、出席 20%  
2年間学んできたシアタージャズをどれだけ理解できているかを総合的に評価します。振付だけではなく演劇性、キャラクター、衣装などトータルパフォーマンスを心掛けてください。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	パフォーマンス総合制作Ⅲ
担当講師名	山崎拓也
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はファッションショーのステージングや舞台・ミュージカルの総合振付を行う実務経験をもちます。

#### 授業内容

1年生の時に学んだ事を作品作りに生かしていきます。全員で協力し合い、ディスカッションを繰り返していきオリジナリティー溢れる作品を作っていきます。また、2クォーターでは秋公演「Tight!」の作品制作を行っていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

全員が作品の内容、テーマ、構成、演出、ステージの形状、イベントの内容を把握した作品制作が出来るようにしていきます。決めたこと、決められていることなど制限がある中で自分たちの見せたい作品、伝えたい内容をはっきりと形に表せるようにしていきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①2年生の授業の進め方や学内イベントについて説明をします。イベントによってどのような内容の作品を制作していくか話し合います。
- ②Aクラス Bクラスに分かれてそれぞれの作品制作を行います。演出内容をクラス毎に話し合い発表をします。
- ③内容を決めたら音を決めていきます。内容に沿った楽曲を探し編集まで行っていきます。
- ④楽曲が決まったら構成・演出を決めていき振付を開始していきます。全体の流れを考えながら振付をしていきます。
- ⑤出来ているところまでを発表します。進捗状況を確認して足りていない部分などを確認して手直しを行っていきます。
- ⑥動画撮影を行い、客観的に作品を見ます。その後、直しを行い、踊りこみをしていきます。また照明プランも考え提出してもらいます。
- ⑦1年生の前で衣装付で作品の発表を行います。動画撮影を行い、次回の作品制作の反省も行います。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験(作品制作)50%、平常点 20%

1年生の斬新な発想にまけないようなオリジナリティー溢れる作品制作が出来ているか、構成・演出がしっかり練られていて作品に反映されているかを見ていきます。また、改めて社会人としてのマナーが身についているかもチェックします。

#### 授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧昨年までのイベントを振り返り、今年の内容を決めていきます。イベントの規模、イベント内容を理解していきます。
- ⑨イベントの内容を決めていきます。昨年までのイベントにはないものを提案していきけるように全員で意見を出し合います。
- ⑩イベントの趣旨、イベントの内容にあった作品プランを立てていきます。その作品プランをデータで提出します。
- ⑪音を決め、構成・演出を決めて振付を開始していきます。受け身にならず積極的に意見を出していきます。
- ⑫全体の流れを考えながら振付をしていきます。ステージ空間を考えて作品制作を行っていきます。
- ⑬出来ているところまでを発表します。進捗状況を確認して足りていない部分などを確認して手直しを行っていきます。
- ⑭動画撮影を行い客観的に作品を見ます。その後、直しを行い踊りこみをしていきます。
- ⑮衣装を着けて作品発表を行います。その後、照明プランを提出して作品のプレゼンテーションを行います。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験(作品制作)50%、平常点 20%

イベントの内容を把握して効果的な作品制作ができているか、こだわりがありオリジナリティーある作品制作が出来たか、一人一人が作品制作に参加しているか、これらを評価のポイントとしていきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	パフォーマンス総合制作Ⅳ
担当講師名	山崎拓也
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はファッションショーのステージングや舞台・ミュージカルの総合振付を行う実務経験を持ちます。

#### 授業内容

2年間の集大成と言える「卒業公演」の作品制作を3クォーター4クォーターで行っていきます。

10分～15分の作品制作になるので、しっかりと話し合いをして今まで学んできた構成力・振付力を発揮しお客様に飽きられない隙のない作品制作を行っていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1000～1500人キャパの大ホールでの上演作品制作になるのでステージの形状、見え方を意識した作品制作になるので全員が作品に対して気持ちを持っていき、規模の大きいステージでも効果的に見せられ構成・演出・振付が出来る事を目標とします。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①卒業公演の大まかな概要説明と作品の方向性を話し合います。タイトルも決めていきます。
- ②テーマを話し合い決めていきます。タイトルに沿ったものにするか全く別のテーマにするか話し合います。
- ③テーマを決めたら作品内容を細かく決めていきます。作品に起承転結があるか確認をしていきます。
- ④作品テーマにあった音を決めていきます。音の効果も考えて妥協のない楽曲探しをします。
- ⑤構成・演出を考えながら振付を開始していきます。イメージを膨らませてよい案があれば提案をしていきます。
- ⑥部分的ではなく全体を考えながら振付を行っていきます。全体を把握して矛盾点がない作品制作を行っていきます。
- ⑦途中経過を確認、チェックをしてダメ出しを行います。その後、自分たちでも確認をして直しの作業を行います。



### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験(作品制作)50%、平常点 20%

構成・演出・表現・振付・衣装が総合的にまとまっているかを評価していきます。各役割に責任を持って仕事を行えているか、積極的に作品制作に携わっているか、を評価していきます。個々の自己管理も評価のポイントとしていきます。

### 授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧3 クォーターでのダメ出し部分の修正をしていきます。出来ていない部分の作品制作も行っていきます。
- ⑨引き続き作品制作を行っていきます。動画撮影を行い客観的に見て何が足りないかを把握していきます。
- ⑩ここまで作品が出来ているようにスケジューリングをしておきます。全体を通してみて直しを行っていきます。
- ⑪直し・踊りこみを繰り返していきます。自己満足な作品、踊り方になっていないか確認をしていきます。
- ⑫衣装を着けた状態で発表をします。ダメ出し部分を直し、踊りこみをして作品に厚みを持たせていきます。
- ⑬直し・踊りこみを繰り返していきます。どこから見ても隙のない作品になっているか確認をしていきます。
- ⑭衣装を着けた状態で発表をします。修正があれば修正、なければ踊りこみをして本番に備えていきます。
- ⑮卒業公演についてと 2 年間の感想などを話し合います。最後に衣装を着て作品を踊り総まとめとします。

### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験(作品制作)50%、平常点 20%

作品をどこまで掘り下げて制作しどこまで踊りこむことが出来たか、卒業公演に対する取り組み方や気持ちが向いていたか、ダンスに対する姿勢も最後の評価のポイントとしていきます。

### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	舞台公演制作Ⅲ（集中講座）
担当講師名	山崎拓也
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はダンス学科公演の舞台監督を担当しています。

#### 授業内容

自分たちが踊る舞台面を1から作り、スタッフワークを理解し将来、自分がダンサーとして舞台に立つ時、コレオグラファーとして作品制作をする際に必要な知識を身につけていきます。2年次は1年生に伝授する為にどのように伝えていくかも考えていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

効率のよい仕込みバラシの行い方を自分たちで考え、1年生に伝える事を行い、色んな現場でリーダーシップが取れる事を目標とします。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①1年生に効率よく教えるためにディスカッションを行います。
- ②各セクションで打ち合わせを行います。
- ③効率の良い仕込み方を全員で考えディスカッションを行います。
- ④効率の良いバラシ方を全員で考えディスカッションを行います。
- ⑤リノリウムについて1年生に伝えていきます。
- ⑥リノリウムの敷き方を1年生にレクチャーします。
- ⑦1年生に実際にリノリウムを敷かせアドバイスをします。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 50%、試験 0%、平常点 50%  
試験は行いません。出欠率、講座に対する態度や仕事を覚えているかを評価していきま  
す。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧1年生だけでリノリウムを敷かせ、最後にチェックを行います。

- ⑨リノリウムの巻き方を1年生に教えていきます。
- ⑩1年生に実際にリノリウムを巻かせ、アドバイスをします。
- ⑪1年生だけでリノリウムを巻かせ、最後にチェックを行います。
- ⑫袖幕について1年生に伝えていきます。
- ⑬1年生に袖幕の付け方をレクチャーします。
- ⑭1年生に実際に袖幕を付けさせ、手伝いをします。
- ⑮1年生に袖幕のバラシ方をレクチャーし、バラシの手伝いをします。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 50%、試験 0%、平常点 50%

試験は行いません。出欠率、講座に対する態度や仕事を覚えているかを評価していきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	舞台公演制作IV（集中講座）
担当講師名	山崎拓也
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はダンス学科公演の舞台監督を担当しています。

#### 授業内容

自分たちが踊る舞台面を 1 から作り、スタッフワークを理解し将来、自分がダンサーとして舞台に立つ時、コレオグラファーとして作品制作をする際に必要な知識を身につけていきます。2 年次は 1 年生に伝授する為にどのように伝えていくかも考えていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1 年生に箱馬の組み方や平台の組み方を覚えさせ一通りの仕込み・バラシを行えるよう指導できるようにします。

#### 授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①1 年生に箱馬とは何かを伝えていきます。
- ②1 年生に箱馬の組み方をレクチャーします。
- ③1 年生に実際に箱馬を組ませ、手伝いをします。
- ④1 年生に平台とは何かを伝えていきます。
- ⑤1 年生に平台の組み方をレクチャーします。
- ⑥1 年生に実際に平台を組ませ、手伝いをします。
- ⑦1 年生に箱馬と平台を組み合わせさせ、手伝いをします。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 50%、試験 0%、平常点 50%  
試験は行いません。出欠率、講座に対する態度や仕事を覚えているかを評価していきます。

#### 授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧1 年生に箱馬と平台をバラし方を伝え、舞台を元通りにすることをレクチャーします。

- ⑨1年生に仕込みの順番を覚えさせます。
- ⑩1年生にバラシの順番を覚えさせます。
- ⑪1年生と一緒に一通りの仕込みを行います。
- ⑫1年生と一緒に一通りのバラシを行います。
- ⑬1年生に通りの仕込みを行わせ、アドバイスをしていきます。
- ⑭1年生に通りのバラシを行わせ、アドバイスをしていきます。
- ⑮1年生に指導の仕方や、伝え忘れがないか確認を行い、バトンタッチを行います。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 50%、試験 0%、平常点 50%

試験は行いません。出欠率、講座に対する態度や仕事を覚えているかを評価していきます。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	インストラクション研究Ⅱ
担当講師名	武井一仁
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

俳優としての演劇活動を経て、ダンサーやインストラクター、振付師、ダンススタジオ経営等、長きにわたっての実務経験を持ちます。

#### 授業内容

インストラクション研究も、いよいよ最終段階です。今まで習ってきたことを活かし、コンビネーション指導につなげていくようにしましょう。よく生徒を観察し、「なぜ出来ないのか」を把握し「どうすれば出来るようになるか」を指導します。そのためには観察力と分析力が不可欠になります。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

進行の仕方やスピード、時間配分なども重要ですが、楽しくまた受けたくなるようなレッスンにはダンス力はもとより話術、牽引力、ユーモアなど、いろいろなものが必要になってきます。どんどん工夫を凝らし、楽しく、生徒が成長できるダンスクラスを心がけましょう。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。振り入れのスピードに注意しましょう。最初は見ながらマネが出来る早さです。
- ②1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。生徒が覚えやすい長さを考えて振りを入れていきましょう。
- ③1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。覚えたらテンポを徐々に上げて、曲の速さで出来るようにしましょう。
- ④1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。カウントで踊っている時も、曲で踊っている時も観察を怠ってはいけません。
- ⑤1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。生徒がやりにくそうにしているところ、間違えたところをチェックしましょう。
- ⑥1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。チェックした個所を個別にフォローしたり、全体に説明し直すことで対応しましょう。
- ⑦1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。振り入れは生徒の集中力が切れないようにテンポよく進行させましょう。

#### 中間試験評価方法・評価基準

作出席 20%、発表内容 50%、平常 30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。視野を広げ、観察力・分析力を最大限に発揮し指導しましょう。また、人のレッスンを良く観察し、自身の指導に活かしましょう。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。質問があった場合は個別対応にとどまらず、答えを全員と共有しましょう。
- ⑨1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。振りを間違えて覚えている人を見逃さず、指摘して訂正出来るようにしましょう。
- ⑩1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。出来ないところを出来るように、分かり易く「How to」を教えましょう。
- ⑪1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。「How to」を教えるのには自分の動きを理論的に把握する必要があります。
- ⑫1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。「何故出来ないのか」「何故出来るのか」「どうすれば出来るのか」を考えましょう。
- ⑬1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。人は興奮状態の方が体が動きます。生徒の気持ちを高める雰囲気を作りましょう。
- ⑭1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。振りを覚えたら曲に合わせて何回も踊らせますが、その都度注意点を伝えましょう。
- ⑮1 人ずつコンビネーション指導をしていきます。ダンスレッスンでは、生徒に「また習いたい」と思わせる演出が重要なポイントです。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 20%、発表内容 50%、平常 30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。一つひとつの言動に説得力があるよう、常に自信を持って仕切りましょう。ステージと一緒に。自身の魅力や実力を自身を持って表現していきましょう。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	インストラクション研究 I
担当講師名	武井一仁
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

俳優としての演劇活動を経て、ダンサーやインストラクター、振付師、ダンススタジオ経営等、長きにわたっての実務経験を持ちます。

#### 授業内容

春学期では「ウォーミングアップのエクササイズ」を発表していきます。実際に指導していく段階に入っていきます。踊るために必要な身体を創り上げ、精神的にも高揚させられるようなウォーミングアップを組み立て、生徒たち（クラスメート）に実際に指導しましょう。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際の発表では、場を仕切りテンションを上げさせ、生徒の動向を観察し臨機応変に注意を与えるという作業が必要です。スムーズな進行には、事前に何度も自分自身で確かめてみましょう。また受ける側に立つ人は、しっかりと内容を観察・分析し、自身のために役立てましょう。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。流れがスムーズになるように、無駄な動きがないように心がけましょう。
- ②1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。スタジオの一番遠い人に届くように、音楽に負けないように声を出しましょう。
- ③1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。次の動きを促す指示は、簡潔に伝わる言葉を選びましょう。
- ④1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。次の動きを予告するのが指示です。タイミングが遅れないように気を付けましょう。
- ⑤1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。指示は聞こえなければ意味がありません。音楽とのバランスに気を付けましょう。
- ⑥1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。人を動かすには説得力が必要です。説得力ある指示を心掛けましょう。
- ⑦1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。指示を出すには対象があります。誰に行っているのかを意識しましょう。



#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 20%、発表内容 50%、平常 30%

試験は特に実施しません。発表内容や授業に対する取り組み方、積極的発言などを評価していきます。人のやっていることを細かく観察し、必ず感想を持つ習慣を付けましょう。そのためには集中力と持続力が必要になります。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。「場」を仕切るにはテンションが必要です。テンション高く進行しましょう。
- ⑨1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。「場」を仕切るには牽引力も必要です。テンポよく自分のペースを作りましょう。
- ⑩1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。指導に大切なのは観察力です。絶えず生徒を観察することを忘れないでください。
- ⑪1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。指示と共に気を付けるポイントも加え、注意を促しましょう。
- ⑫1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。生徒を観察し、気が付いたことはその場で注意出来るようにしましょう。
- ⑬1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。ウォーミングアップは身体と共に気持ちもアップできるように指導しましょう。
- ⑭1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。一方通行の対応にならず、双方向から関わられるように心がけましょう。
- ⑮1 人ずつ順番にエクササイズを発表します。指導は、基本的には対個人が重要です。個々としっかり向き合いましょう。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 20%、発表内容 50%、平常 30%

試験は特に実施しません。発表内容や授業に対する取り組み方、積極的発言などを評価していきます。

指導力＝リーダーシップということを意識し、どんな時にも積極的に場を仕切れるよう心がけましょう。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	パフォーマンスプレゼンテーション I
担当講師名	武井一仁
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

俳優としての演劇活動を経て、ダンサーやインストラクター、振付師、ダンススタジオ経営等、長きにわたっての実務経験を持ちます。

#### 授業内容

I・IIクォーターでは、「3分間のソロ・ダンス」を踊りきりましょう。1分程度なら誰でも持続できます。その先を踊りきれようになりましょう。ジャンルは自由です。1人で踊る覚悟を持って、自信のあるダンスで、プレゼンテーションしてください。また人の踊りを見て長所・短所をしっかりと見極め、自身の踊りに反映させましょう。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンサーは、基本的にはソリストです。何人で踊っていようが、個人個人がしっかり踊りきれていなければ、その存在価値は希薄になります。ここでは、ソロで踊る力を養います。単に技術ではなく、踊り（作品）への入り込み方、見せ続ける精神力や集中力、心身ともに開放する能力などが必要になります。これらがあって、始めて表現力が生まれるのです。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。3分間を踊り切ることが大切です。そのためにはまず「集中力」です。
- ②1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。1人で踊るのは非常に緊張します。緊張に打ち勝つのも集中力です。
- ③1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊る前に覚悟を決めましょう。この覚悟無しでソロは踊れません。
- ④1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊る前に開き直りましょう。この開き直りこそ大きな力になります。
- ⑤1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊りは平常では踊れません。テンションをマックスまで上げましょう。
- ⑥1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊るといことは「演じる」ことです。いつもの自分は捨てましょう。
- ⑦1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊りきるためには自分を信

じ切ることが大切になります。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 20%、発表内容 50%、平常 30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。また、世界的に有名なダンサーの踊りを見るように心がけましょう。いい踊りを見て、自分のイメージを豊富にすることも、ダンサーにとって重要なことです。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。発表の前に十分練習を重ねましょう。練習は、もちろんフルアウトです。
- ⑨1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。カウントは音楽で言う「楽譜」です。踊るときは音を聴きましょう。
- ⑩1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。カウントが見えるダンスより音楽が聞こえるダンスを踊りましょう。
- ⑪1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。練習は大切ですが、練習の通り踊ろうとせずゼロからスタートしましょう。
- ⑫1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。3分間は思ったより長いので、ペース配分を考えましょう。
- ⑬1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。見せ場を意識して踊りましょう。メリハリが大事です。
- ⑭1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。目力も大事です。体と同じように、目も筋肉(眼筋)を使って力を宿します。
- ⑮1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。誰に見せているのかを意識し、対象をとらえて踊りましょう。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 20%、発表内容 50%、平常 30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。うまいだけの小手先のダンスではなく、印象に残る「素敵なダンス」を心がけましょう。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	パフォーマンスプレゼンテーションⅡ
担当講師名	武井一仁
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

俳優としての演劇活動を経て、ダンサーやインストラクター、振付師、ダンススタジオ経営等、長きにわたっての実務経験を持ちます。

#### 授業内容

3・4 クォーターではオーディションを想定して「1 分間のソロ・ダンス」を踊りましょう。実際にオーディションに必要な瞬発力を意識し、プレゼンテーションしていきます。また順番に批評をし、人の踊りを評価することも覚えましょう。人のダンスを観察・分析することも、自身のステップアップに効果的です。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オーディションでのダンスは短時間で自分の魅力や実力を発揮しなければなりません。3 分間の時と違い、最初からクライマックスのつもりで入っていかなければなりません。その際の感情やボディコントロール、集中力、そしてなにより「開き直り」も必要になってきます。

#### 授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①1 人ずつ順に「1 分間のソロパフォーマンス」を発表します。オーディションだと思って大きな声で挨拶してから始めましょう。
- ②1 人ずつ順に「1 分間のソロパフォーマンス」を発表します。最初からマックスで踊るにはスイッチの入れ方が重要になってきます。
- ③1 人ずつ順に「1 分間のソロパフォーマンス」を発表します。大きく、力強く、空間を揺るがすように踊りましょう。
- ④1 人ずつ順に「1 分間のソロパフォーマンス」を発表します。前に対する圧が重要です。どうすれば圧をかけられるか考えましょう。
- ⑤1 人ずつ順に「1 分間のソロパフォーマンス」を発表します。自分の世界を作りましょう。そのためには演じることが大切です。
- ⑥1 人ずつ順に「1 分間のソロパフォーマンス」を発表します。自分をアピールする「武器」を身に付け披露しましょう。
- ⑦1 人ずつ順に「1 分間のソロパフォーマンス」を発表します。「上手く」踊ろうと思ってはいけません。「素敵」に踊ってください。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 20%、発表内容 50%、平常 30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。何を「売り」にしているかを明確に意識することが大切です。そこを追求しないと踊りに説得力が生まれません。

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊る前に自分を解放して、聞こえてきた音楽に反応しましょう。
- ⑨1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。音楽を聴いて音を表現しましょう。カウントダンスは禁物です。
- ⑩1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。体から音が出ていますか？その音と音楽をマッチさせましょう。
- ⑪1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊り始めで場の空気を変えれば、見ているものは一瞬で引き込まれます。
- ⑫1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。表情を顔に頼らず目や手、体全体から出る表情を大切にしましょう。
- ⑬1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。音楽の持つグルーブとダンスのグルーブを合わせましょう。
- ⑭1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。何を「売り」にしているのか、自分の魅力を明確に表現しましょう。
- ⑮1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。スタジオの空間に収まらず、突き抜けたスケールを心掛けてください。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 20%、発表内容 50%、平常 30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。見ている人が踊りたくなるような、人の心をゆすぶる踊りを目指してください。そのためには自分自身が、まず楽しめること。ついつい忘れてしまいがちな「原点」です。そして、これは一生持ち続けなければならない、ダンサーの「ポリシー」でもあります。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	ヒップホップⅢ
担当講師名	鶴園千尋
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティストの振付・バックダンサーの実績があり大手ダンススタジオでの選抜クラスを受け持つなど実務経験を持ちます。

#### 授業内容

1年生の時に学んだ事を再確認していきます。常に体全体でリズムを取る事を努力していき、動きに流れを作っていきます。また、ヒップホップダンスをベースにジャズダンスの要素を取り入れたヒップホップジャズも学んでいきジャンルの幅を広げていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

純粹なレベルアップを目標とします。ヒップホップは得意だけどジャズは苦手、逆にヒップホップは苦手だけどジャズは得意、という事がなくなるようにそれぞれの特性をしっかりと掴み、踊りの幅を広げてジャンルにとらわれる事のないフレキシブルなダンサー像を作っていきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①2年生になっても基本的なところか見直していきます。リズムトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上をしていきます。
- ②手、足の処理を中心に表現の仕方を確認していきます。流れが切れてしまう事なく動けるようにしていきます。
- ③上半身、下半身のバランスを考えて正確にステップを踏んでいきます。大きく動いても暴れて見えないようにしていきます。
- ④いかに早く、正確に与えられた振付の意図を理解して覚える力をつけていきます。
- ⑤コンビネーションを覚えたら流れが止まることなく、綺麗な動き、綺麗なダンスを意識して表現できるようにしていきます。
- ⑥手、腕、肩、首の傾き、顔の角度など一つ一つを大事にし尚且つ大きく踊る為はどうするか研究していきます。
- ⑦コンビネーションを覚えて発表をします。基礎能力が上がっているかの確認もしていきます。

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

振付に対する正確さをポイントとして見ていきます。また、ダイナミックに踊る事が出来ているか、音楽をしっかり聴いて踊っているか、などコンビネーション全体を評価の対象として見ていきます。

#### 授業計画（8回目から15回目）

⑧アーティストのバックダンサーがよく踊っているジャンルです。HIPHOP との違いを知って踊り分けをしていきます。

⑨体の使い方を覚えていきます。基本的には一緒ですがジャズの要素も入ってきます。

⑩表現方法を覚えていきます。JAZZ の要素を取り入れて繊細に踊ることを心掛けていきます。

⑪アクセントの取り方を覚えていきます。HIPHOP の取り方とは違うの使い分けが出来るようにしていきます。

⑫HIPHOP JAZZ の振り付けを覚える力をつけていきます。ただ覚えるのではなく特徴を掴む事が大切です。

⑬コンビネーションを覚えたら HIPHOP か JAZZ のどちらかに偏った踊り方にならないように気をつけます。

⑭音に対するアプローチや曲のイメージ、感情表現も考えながら踊っていきます。もちろんジャンルも考えながらです。

⑮コンビネーションを覚えて発表をします。HIPHOP JAZZ の特性を理解して表現していきます。

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

「HIPHOP JAZZ」の踊り方を理解して HIPHOP との違いを表現できているかをポイントとします。振付を正確に取り、曲の表現や振付の意図を理解しているかもポイントとします。

#### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	ヒップホップⅣ
担当講師名	鶴園千尋
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はアーティストの振付・バックダンサーの実績があり大手ダンススタジオでの選抜クラスを受け持つなど実務経験を持ちます。

#### 授業内容

3月に行われる2年間の集大成である「卒業公演」に向けて体作りを継続し、体の使い方、振りの覚え方、表現の仕方など、全てにおいてバランスよくレベルアップをしていきます。自分の苦手な部分から逃げず克服をしていきます。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

細かいところまで自分の動きを確認していき無駄な動きが無く、尚且つオリジナリティのあるダンスを出来るようになっていきます。卒業公演の振付はリハーサルを想定して行います。振りを早く自分の物にして踊り込みをしていきます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①今一度自分のリズム取りの見直しをしてトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上と応用を覚えます。
- ②表現の仕方を確認していきます。制限を設けても自分で与えられた表現を出せるか研究していきます。
- ③1年生からここまでに習ってきたステップの確認とそこからのバリエーションを研究していきます。正確なリズムも考えながら行っていきます。
- ④どのようにすれば振付を覚えるスピードを上げられるか覚え方の工夫を考えて振り取りに臨みます。
- ⑤振付の意図を理解して自分よがりのダンスにならないように意識して振付者の伝えたい表現を出来るようにしていきます。
- ⑥体の部分部分、全ての箇所神経を行き渡らせ全身で踊るようにしていきます。大きく踊ることと雑に踊ることの違いがわかるようにしていきます。
- ⑦コンビネーションを覚えて発表します。全身を使って振付を覚えて細かいところまで見落とさないようにします。



### 中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

卒業公演の振付に入る前の最終確認と考え、ここまでに習ってきた体の使い方、音楽の表現、振付の意図を理解しているかをポイントとします。もちろん正確に踊ることを大前提とします。

### 授業計画（8回目から15回目）

⑧振付に入る前に振付と曲のイメージを伝えます。そこからイメージを膨らませていき振付に入っていきます。

⑨リハーサルとして行うので少ない振り写しで素早く正確に振付を覚えて細かいところまでこだわっていきます。

⑩手の出し方や角度まで細かくチェックしていきます。自分の形を鏡で確認をして鏡無しでも動かしているか確認していきます。

⑪全員で振りの確認をしていきます。手の出し方や角度が全員で揃っているか確認していきます。

⑫作品の踊り込みをしていきます。出来ない箇所が無くなるまで繰り返し練習を行い、完成度を上げていきます。

⑬2年間で学んだ事を作品に反映させていきます。また全員で作品に対するモチベーションを上げて気持ちを高めていきます。

⑭衣装を着て全員で踊り、動画撮影をして客観的に見て足りないところ発見して直しを行います。

⑮卒業公演の作品を踊ります。最後の試験なので悔いのないように踊りきるようにします。

### 期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

2年間で学んできた全ての事を理解して実力として反映できているかをポイントとしていきます。また卒業公演の作品の中で全員と協力し合い、作品の完成度を上げていく努力を行っていたかもポイントとします。

### 特記事項

通常、対面授業で行いますが、状況により必要な場合はオンライン又はオンデマンドでの対応を予定しております。

学科名	ダンス学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

#### 授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①挨拶、自己紹介
- ②楽器紹介Ⅰ
- ③楽器紹介Ⅱ
- ④どんな音楽が好きですか？
- ⑤作曲家&作詞家紹介
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音楽用語
- ⑨海外旅行Ⅰ
- ⑩海外旅行Ⅱ
- ⑪発表会 スピーチⅠ
- ⑫発表会 スピーチⅡ
- ⑬音楽祭紹介Ⅰ
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	ダンス学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

#### 授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ①日常英会話（学校）
- ②将来の計画
- ③音楽の履歴を書く
- ④音楽のプロフィールを書く
- ⑤リハーサル演奏技法
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

#### 中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧面接 (大学)
- ⑨面接 (仕事)
- ⑩演奏会感想
- ⑪コンサート紹介 I
- ⑫コンサート紹介 II
- ⑬マスタークラス
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席 : 25% 平常点 : 25% 課題 : 10% 試験 : 40%

特記事項

教材・参考書 : 担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	ダンス学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

#### 授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音楽史と西洋言語の関係性概論：教会音楽の樹立からポップミュージックの発展に至るまでの音楽の歴史と、西洋言語の密接な関係性
- ③ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性
- ④ 発音(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ⑤ 発音(2)：子音と母音の個別発音演習
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

#### 中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(1)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑨ コミュニケーション演習(2)：同上。回数を重ねることで徐々に英語のみでのゲームの成立を目指します
- ⑩ 英文法(1)：冠詞および過去形・過去分詞の違い
- ⑪ 英文法(2)：前置詞および句動詞
- ⑫ 総復習：夏期休暇明けのため、第1クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

#### 期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等进行评估します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

#### 特記事項

学科名	ダンス学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

#### 担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて 15 年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

#### 授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

#### 到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

#### 授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音節(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ③ 音節(2)：音節の数え方および発音実習
- ④ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性。春学期に引き続き、最重要テーマのため復習します
- ⑤ コミュニケーション演習(3)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

#### 中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。  
口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。



出席：50% 平常点：30% 試験：20%

#### 授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(4)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑨ クリスマスキャロル歌唱：西洋において重要な音楽文化であるクリスマスキャロルについての説明と歌唱
- ⑩ 総復習：冬期休暇明けのため、第3クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑪ コミュニケーション演習(5)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑫ コミュニケーション演習(6)：同上。より大人数でのグループ分けによるディスカッション形式でのゲームの成立を目標とします
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

#### 期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

#### 特記事項

秋学期は春学期から継続しての受講者と新規受講者が混在するため、カリキュラムが大幅に変更される可能性があります。

学科名	ダンス学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Nice to meet you! 自分から挨拶してみよう
- ②I'm from Japan. 自分の出身地を紹介しよう
- ③What's her name? 友だちにインタビューしてみよう
- ④Where do you live? その人のことを一言で表してみよう
- ⑤She is interesting. その人の特徴を伝えよう
- ⑥This is my mother. 自分の大切な人やものを紹介しよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分アピールの発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%  
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Three pizzas, please. いくつ欲しいのかを伝えよう

- ⑨How much is this bag? 買い物をしてみよう
- ⑩Where are my keys? 家の中に何があるか教えよう
- ⑪Is there a bus to the airport? 行きたい場所をたずねてみよう
- ⑫What time does the library open? 時間を伝えよう
- ⑬I go shopping on weekends. 週末には何をするかを伝えよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、週末の予定を紹介しよう

#### 期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

#### 特記事項

学科名	ダンス学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Where do you work? どんな職業に就きたいかを伝えよう
- ②I do karaoke on Wednesdays. 普段していることを話してみよう
- ③I can play baseball. できることができるのかを伝えよう
- ④I like Italian food. 簡単に作り方を教えよう
- ⑤Can you call back later? 電話をしてみよう
- ⑥Would you like to go to the movies? 上手な返答の仕方を考えよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分をアピールする発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Please don't play loud music. ルールについて話してみよう
- ⑨I have a headache. 症状を伝えよう
- ⑩I'm going to go sightseeing. 休暇に何をするか話してみよう
- ⑪How was your vacation? 休暇の思い出を伝えよう
- ⑫How much do you spend each month? お金の使い方を話してみよう
- ⑬How do I get to the bank? わかりやすく道案内しよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、休暇の思い出を紹介します

期末試験評価方法・評価基準
---------------

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項
------

学科名	ダンス学科
科目名	インターンシップ I
担当講師名	
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認める学外活動（外部公演、メディア等への外部出演、企業研修・小学校でのダンス指導など）を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各々の進路を踏まえた学外活動、企業研修を体験することにより、卒業後の進路への準備、オーディション等の合格レベルに達する技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

外部活動に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、また、オーディション結果等を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

外部活動に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、また、オーディション結果等を評価します

特記事項

特別な状況下においては、学外活動や企業研修が実施されない場合もありますのでその点はご了承ください。

学科名	ダンス学科
科目名	インターンシップⅡ
担当講師名	
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認める学外活動（外部公演、メディア等への外部出演、企業研修・小学校でのダンス指導など）を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各々の進路を踏まえた学外活動、企業研修を体験することにより、卒業後の進路への準備、オーディション等の合格レベルに達する技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

外部活動に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、また、オーディション結果等を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

外部活動に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、また、オーディション結果等を評価します

特記事項

特別な状況下においては、学外活動や企業研修が実施されない場合もありますのでその点はご了承ください。